

第8回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和3年11月2日（火）

18時～19時30分

会場：小諸高校 音楽ホール
(音楽棟2階)

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

- (1) 第7回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

4 会議事項

- (1) 小諸新校の学び（全体像）について
- (2) 新校開校に向けた諸課題について

5 その他

<今後の予定>

○ 第9回小諸新校再編実施計画懇話会

【日時】 令和3年12月23日（木） 18時～19時30分

【会場】 小諸市庁舎 3階 第1・第2会議室

【内容】 再編実施基本計画（案）策定に向けた意見交換

5 閉 会

第7回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)9月17日(金) 18時00分～19時30分	
場所	オンライン会議(会場使用:小諸高校・小諸商業・小諸市役所・長野県庁)	
出欠・傍聴	懇話会構成員 出席=23名 欠席=2名 傍聴者(オンライン) 傍聴=3名 報道=2社	
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢敬
当日資料	第7回懇話会次第と資料、第6回懇話会まとめ、両校職員によるプレゼン資料(普通科・音楽科・商業科)	

会議事項

報告:第6回懇話会まとめ 会議:1.校地検討部会からの提案 2.両校職員「新校の学びのイメージ」発表→意見交換

会議内容及び意見交換要旨

1 校地検討部会からの提案【部会長(田中尚公副市長)より説明】

「両校生徒の熱心なプレゼン、先生方の研修報告、両校同窓会諸先輩方の生徒への思いや将来への希望が、私たちに伝わった。その熱き思いに応えようと、常に前向きな議論を進めた。関係の皆様方に感謝を申し上げ、以下提案する」

① 校地検討部会のまとめ ② 校地選定理由 ③ 小諸商業校地活用にあたっての要望【別紙参照】→《意見交換》

- 良くまっている。今後は資金集め、小諸高校の跡地活用がポイント。小諸市支援のもと皆で知恵を出し合うことが必要。
- 通学の利便性から妥当な方向だが、正門の道路狭く安全面に配慮必要。グラウンド等も含め校地・施設の充実を要望。
- あるものを活用し駅から近く、良い場所を選定と感じる。小諸高校跡地も皆で小諸らしい活用ができればいい。
- 新校は、地域ぐるみで子どもを育てることを目指す。市街地に近く、小中学校等との連携に期待。

(賛成意見多数、反対なし) → 座長による採決 → 賛成多数 → 懇話会から県教委への校地選定の提案として確定

2 両校職員による「小諸新校の学びのイメージ」プレゼンテーション ⇒ 意見交換

【基本理念】・多様な進路を志すもの同士が協働して学び、本物に触れ、実社会を学びのフィールドとし、新たな社会を創造する一員として活躍する有為な人材を育む

【教育方針】・探究的な学びをとおして「課題発見力」「探究力」を伸ばし、地域の発展に貢献できる人材を育む
・グローバルな視点・感覚を涵養、コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力を育む
・主体的な学びを通し、自らの可能性と未来を切り拓く力に気づき、大きな夢に挑戦する人材を育む

《①地域連携、探究的な学び ②コミュニケーション、クリティカル・シンキング、多様性 ③主体性、キャリア教育》

【普通科】○何にでも、なりたい自分になれる可能性 → 多様な学びを保証し生徒の無限の可能性を引き出す
○基礎学力を身に付ける学習 + 地域課題探究型の学習

- ① → 市議会から地域課題を発見 → 自分たちにできる活動を生徒が模索 → 社会の一員として成長
- ② → 幼小中学生等、異年齢との多様な交流(連携)、実践的な外国語教育
- ③ → ジョブインタビュー(「本物」に触れる訪問インタビュー) → 3科融合のデュアル学習に発展
「新しい」「ワクワクする」「小諸ならではの」学びの実現を目指し ⇒ 『地域連携コンソーシアム』構築

【音楽科】○世界で活躍する人材を育むために、これからの「音楽専門家」として身につけたい4点
① 音楽の専門知識・技術 ② エンターテインメント性 ③ プロデュース力 ④ 一般常識・マナー

- ① → 出張演奏(3科で連携した長野県一周音楽ツアー等)、市立図書館音楽ライブラリー運営
小中高連携(楽器講座・コンクール審査)、ケーブルテレビ番組制作、ミュージックカフェ経営
- ② → ウィーン研修、ウィーン連携校とのオンライン交流、公開レッスン、音楽大学との連携(単位認定)
- ③ → 定期演奏会・校内演奏会・ミュージカル等、企画・運営・出演 → ブログ・動画制作

【商業科】○教科横断型の学習 [多様な生徒の共同研究=継続的に、複数教科のチームティーチングで支援]

- ① → 地元企業との商品開発、学校間連携、3科の生徒が融合したデュアル学習の展開
- ② → ビジネス探究プログラム、3科の生徒が共同して研究
- ③ → 地域と連携した学習活動 → 職業観の育成 → 主体的な進路実現

○小諸商業にある定時制課程はこれからどうなるのか → 懇話会その他、様々なところで検討されると承知(座長)
○多様なあふれる学校がつけられるイメージのプレゼン。主役の子どもたちが輝ける学校構築となることを期待。
○新たな授業や単位制など、新しい視点で考えるきっかけになった。全ての人たちにフェアな学校となることを期待。
○新校は普通科、特色学科、専門科、他校にはない連携に大きな期待。小諸市の協力を得ながら進めてもらいたい。
○よくまとまっているが、実際にこの内容を実行するとなると先生方は相当大変。自分たちの変革も必要になると感じた。
○シンボリック思考や譲れないものが学校の柱。生徒や先生に夢もあるが、大学入試があるのも現実。両立が大事。
○グローバルとは英語教育にとどまらない。新校は音楽の力の発信や東信の商業教育拠点を生かす方向がよい。かなり理想が高いと感じたが、先生方や地域の方々と一緒に歩んで行ったら凄い学校ができるのではと期待が持てる。

次回:令和3年11月2日(火)小諸市庁舎 内容:統合に向けての諸課題(佐久地域の中学卒業生数予測資料は今回提示)

小諸新校 校地選定について~~（案）~~

校地検討部会

1 校地検討部会のまとめ

新校の校地は、小諸商業高等学校の校地を活用する。

2 校地選定に至った主な理由

- (1) 小諸駅に近く、生徒の利便性や安全性の面で優位性がある。
- (2) 市街地にあることで、小諸市が進めている「多極ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくり構想と連動した、地域協働コンソーシアムの構築が期待できる。

3 小諸商業校地活用にあたっての要望

- (1) 早期の開校を目指すこと。
- (2) 特に、以下に示す施設・設備の充実を目指すこと。
 - ア. 現行の普通科や音楽科の諸活動に必要な施設・設備の充実
 - イ. 地域と連携した新たな学びを実現する施設・設備の充実
 - ウ. 必要に応じた校地の拡張及び周辺整備
- (3) 小諸高校の跡地活用および必要な校地の拡張にあたっては、小諸市もまちづくりの視点で長野県と協力して対応すること。

小諸新校の学校像について（プロジェクトチーム案）

地域を舞台に多様性を重視し、グローバルな視点で未来を創造する、3科融合校

【基本理念】

多様な進路を志すもの同士が協働して学び、本物に触れ、実社会を学びのフィールドとし、新たな社会を創造する一員として活躍する有為な人材を育む。

【教育方針】

- (1) 地域をフィールドとした協働的・探究的な学びをとおして「課題発見力」「探究力」の伸長を図るとともに、地域の発展に貢献できる人材を育む。
- (2) グローバルな視点・感覚を涵養するとともに、コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力（クリティカル・シンキング）等を育む。
- (3) 主体的な学びをとおして、自らの可能性と未来を切り拓く力に気づき、より大きな夢に向かって挑戦する人材を育む。

【新校で重視する学びの姿勢】

Agency（エージェンシー）
主体的に社会変革実現を目指す姿勢・意欲



戦略的学習力
何を？、どのように？学ぶのか

《新校の学びの柱》

地域と連携した学び	学科・教科横断型の学び	本物に触れる学び
-----------	-------------	----------

- 多様性を大切にする学び
- ワクワクする学び
- 小諸ならではの学び



学科・教科横断型の授業を展開、実社会をフィールドとした3科のハーモニー

○商業の専門性を伸ばし、地域を舞台にした実践的な学びを通して、未来を拓くイノベーションの担い手の育成を目指す

○協働的に地域課題を探究する学びを通して、多様な進路への無限の可能性を追求し、高いレベルでの自己実現を目指す

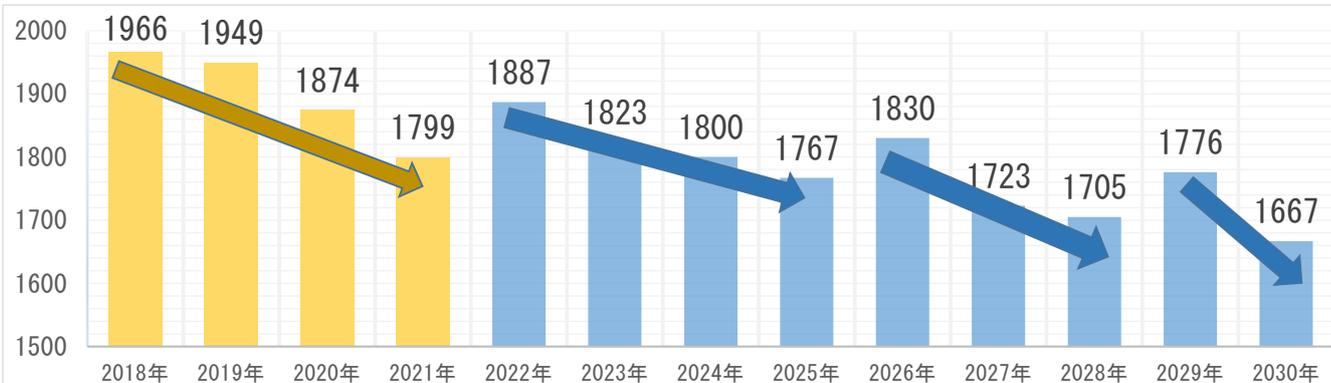
○音楽の専門的な学びに加え、他科と融合した諸活動を通して、世界を舞台に多様で大きな夢を実現する力を養成する

小諸新校独自の探究的な学びにより、主体的・協働的に生き方や学ぶ意義を探究

1 旧第6通学区の中学卒業生数と学級数（2022年以降は予測）

高校教育課 高校再編推進室 地区担当

西暦年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
中学卒業生数	1,966	1,949	1,874	1,799	1,887	1,823	1,800	1,767	1,830	1,723	1,705	1,776	1,667
前年との差	-	-17	-75	-75	88	-64	-23	-33	63	-107	-18	71	-109
学年	(19歳)	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1



合計学級数	42	40	39	37									
① 小諸商業	4	4	4	4									
② 小諸	5	5	5	5									
①+②の比	21.4%	22.5%	23.1%	24.3%									
③ 野沢北	5	5	5	5									
④ 野沢南	5	5	5	5									
⑤ 上記以外	23	21	20	18									

合計学級数	42	40	39	37									
普通科	31	29	28	26									
専門科	9	9	9	9									
総合学科	2	2	2	2									

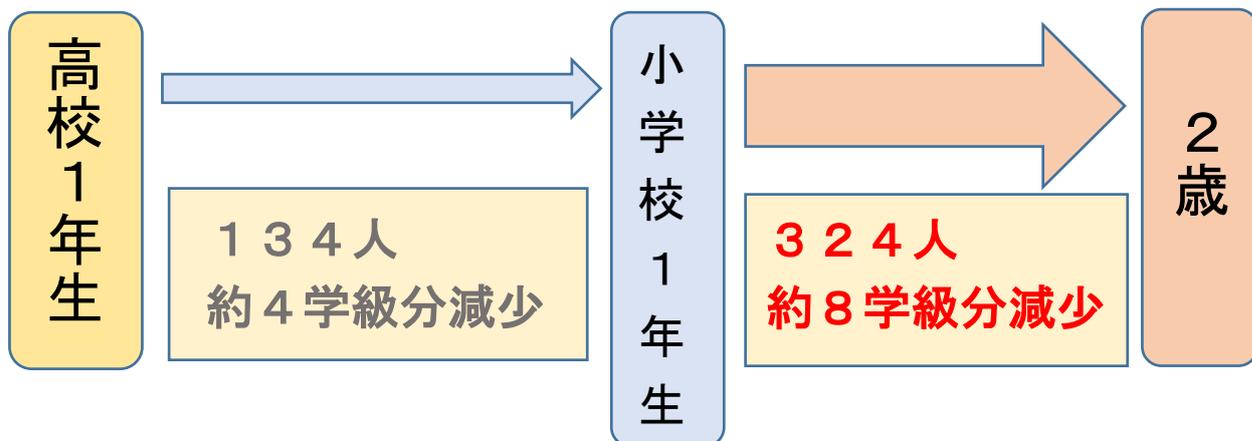
※音楽科・理数科は普通科としてカウント

○旧第6通学区 中学卒業生数予測

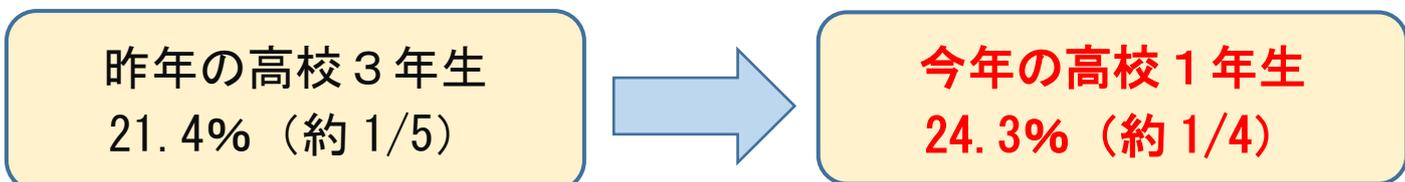
2021年

2030年

2035年



○両校の学級数(4+5=9学級)が、旧第6通全体に占める比率



2 設置課程について

(1) 現在の両校の設置課程

- 小諸商業【全日制課程】商業科 【定時制課程】商業科
- 小諸高校【全日制課程】普通科・音楽科

(2) 小諸商業定時制課程の状況

① 令和3年5月1日現在の在籍生徒数 [単位：人]

	1年	2年	3年	4年	合計
男	5	5	6	5	21
女	1	2	8	1	12
合計	6	7	14	6	33

② 在籍生徒の通学方法及び通学所要時間 [単位：人]

	徒歩	交通機関				自転車	バイク	自動車 その他	合計
		小海線	しなの鉄道		バス				
			上田方面	軽井沢方面					
0～20分		1					2	8	11
21～40分	1		1				1	8	11
41～60分		5	1	5					11
合計	1	6	2	5	0	0	3	16	33

(3) 東信地域（旧第5通・旧第6通）の定時制課程の配置状況

- 旧第5通学区 上田高校（普通科）・上田千曲高校（工業科）
- 旧第6通学区 小諸商業（商業科）・野沢南高校（普通科）
- 東信地域の多部制・単位制高校 東御清翔高校（午前部・午後部）《夜間部なし》

(4) 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針（定時制課程に関する記載内容）

●方針2 夢に挑戦する多様な学びの場、学びの仕組みを整備充実します。

イ 多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校

- 多部制・単位制高校の充実

東御清翔高校（午前部・午後部）

・多部制・単位制高校は、現在、**第2通学区（東信地区）**、第3通学区（南信地区）、第4通学区（中信地区）に各1校配置されているが、今後第1通学区（北信地区）への配置を検討する。

・各地区における定時制の適正配置についても検討していく。

・定時制専門学科については、専門学科の施設・設備を有効に活用し、体験的なキャリア教育を充実させながら、普通科へ転換する。

●方針5 多様な学びの場を全県に適切に配置します。

(2) 校種ごとの配置の考え方

エ 定時制高校は、通学時間帯が夜間に及ぶことを考慮し、生活・通学圏域である**旧12通学区を基本に配置を検討**する。

旧第6通学区は現在
小諸商業と野沢南高校
の2校に設置

定時制・通信制課程の再編整備計画は、令和4年3月の【全県(案)】で公表予定

3 統合の方法について

【例1：年次統合】＜仮＞令和4年度から年次統合

[小諸・小諸商業に入学した生徒が、そのまま小諸・小諸商業で卒業する場合]



【例2：一斉統合】＜仮＞令和4年度に一斉統合

[小諸・小諸商業に入学した生徒が、小諸新校で卒業する場合]

